

2014年3月期 第2四半期決算発表後 電話カンファレンス（2013年10月31日）
主な質疑応答

出席者：

代表取締役 社長執行役員 幸後和壽

代表取締役 専務執行役員 瀬川達生

<質問者A>

Q：マレーシア第1期プラント、PS-1の立ち上がり状況なのですが、今回の資料では11月生産開始ということで、前回までのお話と比べると少し遅れているのかどうか、このあたりをご解説下さい。

A：生産開始という言葉の定義は、全ての系列を動かす、蒸留系も含めて全部フルで動かすということです。11月に入ってその体制が整うということです。これまでお話ししていたスケジュールと比べて、大きく変わっている訳ではありません。

Q：マレーシア第2期プラント、PS-2の状況ですが、これまでは2015年4月に太陽電池向けグレードを生産・販売開始するというお話でしたが、これを早められて、来年2014年中頃に太陽電池向けグレードの生産・販売開始を目指すという今回のお話でした。現在の市況、為替水準でPS-2を動かせば、収益に対して貢献出来るので、早めることを決めたということでしょうか？

A：現在、建設は予定通り進んでいます。今年の年末あたりにプラントが完成する予定で、その後試運転を開始する計画です。来年の中頃には、品質も安定し、全系列を稼働させる体制が整う予定です。これも予定が大きく変わっている訳ではありません。一方で、足元では2月に想定していた1ドル90円よりも円安が進んでおり、太陽電池向けの市況底打ちの状況がこのまま続くようであれば、来年中頃に生産・販売を開始したいと考えています。

Q：PS-2の太陽電池向けグレードの販売先についてはどういう状況ですか？

A：現在コンタクトしている販売先候補には、品質確認を含め、PS-1から出てきたものでサンプル出荷を始めていく予定です。

Q：この上期もまだフリーキャッシュフローはマイナスの状態が続いています。フリーキャッシュフローが黒字転換するタイミングは、現時点でいつ頃と見ていらっしゃるのでしょうか？

合わせて、第2四半期末で棚卸資産が大分減ってきています。どういった要因で減ってきているのか、キャッシュの動きでご説明頂けるのでしょうか。

A：今現在、私たちの想定では2015年度からフリーキャッシュフローは黒字化出来ると考えています。

第2四半期末での棚卸資産の減少ですが、これは主に前期末に抱えていた多結晶シリ

コンの仕掛品及び製品の在庫の減少が一番大きな要因となっています。

<質問者B>

Q：今期の通期業績予想を据え置かれています。上期の営業利益は期初計画と比べて18億円上ぶれています。そうすると、下期に関しては下ぶれということになるのですが、下期のリスク要因として何を想定されているのですか？

A：セグメント別に申し上げますと、セメントは少し上ぶれする期待はあるのですが、成品は国産ナフサ価格の上昇或いは高止まりが大きなリスク要因であろうと思います。特殊品及びライフアメニティーはほぼ予定通り進行するであろうと見込んでいます。また、上期の営業利益の上ぶれは、支出削減が当初の予算に比べて前倒しで進んだ影響もあります。

<質問者C>

Q：トクヤママレーシアのキャッシュコストを下げるといふこれまでのお話がありましたが、どの程度クリア出来ているのか、進捗はどのような感じでしょうか？

A：第2期まで含めるとまだプラントが出来上がっていないのですが、その完成に向けて、これまでの私たちの経験を踏まえて色々な面を改善していくことで、目標をクリアするプラントに仕上げているという状況です。

<質問者D>

Q：トクヤママレーシアのキャッシュコストを目標通り削減出来るとした場合、今後3年くらいで見たときに、比較的電力コストが高い他国の競合の状況がさらに悪化することになれば、御社にとって事業環境が少し改善するのではないかと考えています。そのあたりの見通しはいかがでしょうか？

A：中国のアンチダンピング課税の影響で、最大の多結晶シリコン市場である中国で多結晶シリコン市況が少し上がってくるかと思っていたのですが、なかなか上がって来ていません。やはり、この3～4年の間に、市況が大幅に上昇するとは想定しにくいと考えます。その間は、当社も含めて中国以外の大手多結晶シリコンメーカーがどこまでコストダウンできるかが最大のポイントだと思います。従って、私たちはとにかくマレーシアで徹底的なコストダウンをやって、何とか市場にフィットできる価格あるいは品質を作り込んで市場に対してチャレンジしていくということしかないと思います。

以上